

清新中学校だより 清風

令和3年2月1日
第180号

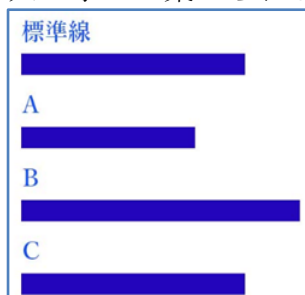
「同調」？、それとも「協調」？

校長 江戸谷 智章

皆さんは、次のような経験をしたことはないでしょうか。本当はバスケットボールをやりたいのだけれど、周りに人たちがサッカーをやりたいというので、あえて自分の意見は言わずに、周りに合わせてサッカーをやることになった、というようなこと。

自分以外の人の意見に影響されて、その人たちの意見に合わせてしまう心理のことを「同調」というのだそうです。では、私たちがよく言う「あの人はとても協調性の高い人だ」などという時の「協調」との違いは何なのか、少々気になったので調べてみました。

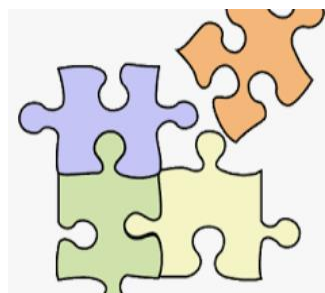
まずは「同調」についてですが、このことについて研究した人で、ソロモン・E・アッシュという心理学者がいます。アッシュはこの「同調」を解明するために次のような実験を行いました。実験には毎回8人の学生が集められましたが、うち7人は「サクラ（いつわりの実験者）」でアッシュが指示した通りの嘘の答えを言わなくてはなりません。



つまり本当の実験の対象者は、残りの1名ということです。彼の実験はとても単純なもので、左のようなカードが18種類用意され、それぞれのカードについて「標準線」と同じ長さものを下から選び出さないといった、小学生でも答えられそうな質問がなされるのですが、18枚のカードうち12枚については、あえて間違えた答えを「サクラ」に言わせるのだそうです。その時、残された1名がどういった反応を示すのかというのを観察したというのです。

上のカードの答えは明らかに「C」が正確ですが、7名の「サクラ」が不正解である「A」を自信ありげに答えると、残された1名も同じように不正解を選んでしまうことが確認されたというのです。実験の結果、「サクラ」に影響されず、全ての質問に正解を答えつづけられた人はわずか25%たらずで、残りの75%は、おかしいなと思いつつも周りの間違った答えに同調してしまったというのです。

では、なぜこれほどまでに単純な問題であるにもかかわらず、誤りと分かっているが間違った回答をしてしまったのでしょうか。回答者の多くは、「自分だけ周りとは異なっているのはいやなので集団に従った」、「自分だけ愚かだとみなされたくない」などが主な理由であったといえます（注）。



次に、「協調」との違いについてです。「協調」を辞書で調べてみると「利害や立場などの異なるもの同士が協力し合うこと」とあります。つまり、自分を否定することなく、また他者をも否定することなく、互いに折り合いを付けながらよりよい解を求めていく作業のことで、けっしてどちらかを全否定するものではないということです。

昔、「赤信号みんなで渡れば恐くない」といった言葉がありました。集団や周囲がもたらす環境は、目に見えないだけにとっても大きな影響力があります。また、私たちは自分自身で考えて行動しているようでその実、周りの様子をうかがったりしながら行動している部分も少なからずあるように思います。「同調」のすべてが問題ではないにせよ、「〇〇さんが言ったことだから・・・」、「〇〇さんと同じです・・・」などと言って自分自身を封印してしまうより先に、自分の思いや考えをしっかりと伝えた上で、他者と上手に調整を図っていくとする資質・能力が、これから先の時代には問われていくような気がしてなりません。

(注) 『心理学・再入門—ブレークスルーを生んだ12の研究』J. R. スミス・S. A. ハスラム 編
樋口匡貴・藤島喜嗣 監訳（新曜社、2017）から一部引用

小さな努力の積み重ねが自信につながる

教務主任 葉袋 剛紹

昨年3月から新型コロナウイルスへの感染が少しずつ広がり、多くのことが制限される中で新しい生活様式に変わってきました。そんな中、今年もお正月には箱根駅伝が行われ、それを自宅で観戦していました。その最終10区で大きな差がありながら、2位の大学が1位の大学



を抜いて逆転で優勝を果たしました。2位の大学のアンカーの選手は襷を受け取ったときには「優勝は厳しい」という気持ちが多少あったと思いますが、自分が努力してきたことを信じてゴールする最後の最後まで諦めずに全力で走りきったことで奇跡的なあの逆転劇が起こったと思います。また、1位の大学のアンカーの選手は、9人が繋いできた襷の重さ、初の総合優勝へのプレッシャーなど見えないものに押しつぶされ、自分の力を発揮することが

ができなかったとも思います。ただ、両選手ともこの1年間、箱根駅伝の本番で走ることを目標にし、自校の辛くて厳しい練習を乗り越えてきたと思います。

私自身、高校2年生の2学期、級友からの声かけがきっかけで、大学入試に向けての勉強をやり始めました。最初は進学して学びたい大学(目標)は決まっていまへんでしたが、3年生に進級するころには具体的な大学や学科を絞り込み、推薦入試で受験しようと決め、自分なりに動き始めました。夏までは野球部の活動があり、じっくりと入試に向けての勉強ができそうになかったのて、まずは4月から2年生のときに授業でお世話になった国語の先生にお願いして小論文の添削をしてもらったり、数学の先生に面接練習を含めた数学の補習をしていただく等部活動の休みの日や自宅での時間を活用して少しずつ勉強をしました。部活を引退した夏休み以降は塾へ行くなどして一般入試に向けての勉強もやり始めました。結果的に推薦で合格することができました。部活動でも大学入試でも目標を達成するために、小さな努力が大切であること、積み重ねてきた努力は自信につながること、良い結果になると信じて取り組むこと等、身を持って感じるすることができました。



3年生はもうすぐ受験です。2年生も1年生もあつという間に受験という次のステージへの扉を開ける日がきます。何か考えると緊張したり、プレッシャーになってしまうことが多いと思いますが、3年生は今まで積み重ねてきたことや良い結果になることを信じ、自分の力で次の扉を開けることを願っています。また、1・2年生はできる限り早めに自分の目標を決め、それを達成できるように小さなことからコツコツと取り組んでほしいと思います。

2月の主な日程

※下記の日程につきましては、今後変更が予想されます。ご了承ください。

2月

- 1日(月) 諸活動なし
- 2日(火) 教育相談
- 3日(水) 教育相談 全校集会
PTA本部会
- 4日(木) 公立高共通選抜志願変更～8日
諸活動なし
- 5日(金) 3年生学校給食提供最終
教育相談
- 8日(月) 諸活動なし
- 9日(火) 生徒会委員会
- 11日(木) 建国記念の日



- 12日(金) 1・2年生諸活動なし～18日
- 15日(月) 公立高共通選抜学力検査～18日
1・2年生定期試験～17日
- 18日(木) ときわぎ級地域学習
1年生Jサブリ
- 22日(月) 公立高共通選抜追検査
諸活動なし
- 23日(火) 天皇誕生日
- 24日(水) ときわぎ級学年末面談～25日・
3月1日～2日
- 25日(木) 諸活動なし
- 26日(金) ときわぎ級お別れ会 中央議会

